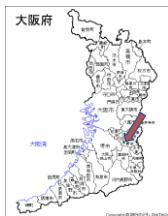


独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター
(旧:大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター)

- 住所:大阪府羽曳野市
- 交通:近鉄南大阪線 藤井寺駅下車
近鉄バスで約15分
(自家用車での通勤也可)

責任指導医 亀田 誠(昭和63年卒)
2021年度所属医師 常勤7名
レジデント3名



大阪はびきの医療センター 小児科

小児科の特徴

- ✓ 他の医療機関ではコントロールできない気管支喘息に対し、鑑別診断から積極的な薬物治療まで行っています。
- ✓ 慢性咳嗽の鑑別にも力を入れています。
- ✓ 食物アレルギーに対しては食べられるものの幅を広げ、QOLの改善に努めています。と同時にアナフィラシーの予防と対応の教育にも務めています。
- ✓ 耳鼻咽喉科、皮膚科と密接に連携しています。
- ✓ 心理士も勤務しており、個別心理療法も実施可能です。
- ✓ その他、一般小児診療、NICU、ショートステイにも取り組んでいます。

大阪はびきの医療センター 小児科

・外来患者数(2019年度)

1日平均 81.7名 (延べ外来患者: 19,771名)
午前 4診体制
(2診は予約外来、1診は初診専用、1診は一般小児)
午後 3~4診体制

・初診患者

年間 882名
食物アレルギー、喘息、慢性咳嗽、結核関連の紹介が多い。
日勤帯の救急の受け入れあり。
時間外受診、入院紹介は当直帯を含め極力対応する。

大阪はびきの医療センター 小児科

・入院診療

平均入院患者数 23.6名 (19年度年間入院: 2,264件)

食物アレルギー関連 約70%
(負荷テスト、経口免疫療法、アナフィラキシー入院など)
気管支喘息関連 約10%
(喘息増悪入院、重症難治例に対する長期入院療法など)
各種感染症(結核を含む) 約20%

食物経口負荷テストは年間1,350例程度で全国トップレベル

大阪はびきの医療センター 小児科

・対外的活動

小児喘息治療・管理ガイドライン、食物アレルギーガイドライン作成
大阪府教育庁 食物アレルギー対応ガイドライン作成

・共同研究

アトピー性皮膚炎児の食物アレルギー発症抑制の検討(AMED)
食物アレルギー急速経口免疫療法などの治療開発、等

・臨床グループの構築

大阪食物チャレンジネットワーク
大学の垣根を越えた超えた一大グループの形成

・コメディカルの育成

小児アレルギーエデュケーター
栄養士のための食物アレルギー研究会(OFAD)

大阪はびきの医療センター 小児科

・教育研修プログラム

入院診療は主治医制とチーム制(2チーム)の混合で実施。
チーム毎に朝のカンファレンスで、方針の確認と決定。
新人には到達目標を設定(症例経験、自学、講義の3本柱)。
分担業務:食物負荷テスト、一般診療、NICU、1か月健診、日直・当直。

・カンファレンス

全体カンファレンスは週1回。
入院症例が主体で、一部外来症例も。

・抄読会

週1回を原則。
臨床研究を前提としたPICO、PECO抄読会や総説。